

◆◇ 会議録 ◇◆

会議名	令和4年度第1回阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会		
開催年月日	令和4年8月30日(火)	資料の有無	無・(有) →別紙
会場	阿南市役所6階 603・604会議室		
出席者	<p>【委員】 青木委員、池添委員、岩佐委員、兼松委員、坂本委員、佐竹委員、鈴江委員、中野委員、秦野委員、箕島委員、山本委員 計11人</p> <p>【市】 表原市長、山本副市長、坂本教育長、松崎政策監、岡田企画部長、吉積総務部長、岡部危機管理部長、吉村市民部長、石本環境管理部長、吉岡保健福祉部長、橘産業部長、豊田建設部長、倉本特定事業部長、木本会計管理者、藤原水道部長、市瀬教育部長、阿部議会事務局長、中川消防次長 計18人</p> <p>【事務局】 東企画政策課長、脇坂課長補佐、新居係長</p>		
内 容			
(11:05 開会)			
(東企画政策課長)			
<p>それでは、総合計画審議会で大変お疲れのことと存じますが、引き続き、令和4年度第1回阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会を始めさせていただきます。</p> <p>座長が決まりますまで、進行を務めさせていただきます。以後、着座にて進行させていただきます。</p> <p>本懇談会は、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づく阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関し、広く関係者のご意見を聴取するために設置されております。</p> <p>開会にあたりまして、表原市長よりご挨拶を申し上げます。</p>			
(表原市長)			
<p>皆さん大変お疲れ様でございます。先程の総合計画審議会に引き続きまして、皆様にはこの総合戦略懇談会委員へのご就任もお引き受けいただき誠にありがとうございます。</p> <p>当戦略では、人口減少そして超高齢社会の大きな流れの中にあっても、人口減少のカーブを抑えていくという視点と、人口減少そのものに備えていくというこの2つの視点から、積極的戦略に取り組んでおります。そして、総合計画にも掲げておりますように、人口減少社会を前向きに捉えて、そして、このコロナ禍のような急激な変化にも対応していくことができるしなやかな地域社会を創っていくために、世界に誇れるような多様性のある魅力をしっかりと生かしながら、独自性のある施策を展開しているところであります。本戦略を推進するに当たりましては、先程もお伝えをさせていただきましたが、政策の目標をしっかりと設定して、その重要な指標に、検証を行って、その結果を次年度以降の計画に反映させていくという形をとっております。その検証・見直しについては、基本的に毎年度行うこととしており、基本目標及び各施策のKPI・重要指標の達成状況等を検証するPDCAサイクルを回しながら、総合戦略の確実な推進を図ってまいりたいと思っております。</p> <p>本日は短い時間ではございますが、令和3年度における実績進捗状況についてご審議</p>			

をいただきまして、計画の着実な実施に向けて今後の取組を進めてまいりたいと思っておりますので、引き続き皆様方からのお力添えをいただきたいと思っております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

(東企画政策課長)

ありがとうございました。委嘱状の交付につきましては、お手元に配付させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

本日、藤井委員から欠席のご連絡をいただいておりますが、11人の委員にご出席いただいておりますので阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会設置要綱第6条第2項の規定により、会議は有効に成立していることをご報告申し上げます。また、会議録作成のため、議事進行中は録音させていただき、会議録は後日ホームページで公開いたしますのでご了承ください。

それでは座長の選任に移りたいと思います。同要綱第5条第2項の規定により、委員の互選により座長を選任していただくこととなっておりますが、事務局から提案させていただいてもよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(東企画政策課長)

それでは事務局から提案させていただきます。

(脇坂課長補佐)

企画政策課の脇坂です。よろしくお願いいたします。事務局案といたしまして阿南工業高等専門学校校長の箕島委員にお願いしたいと考えております。

(東企画政策課長)

ただいま事務局から座長を箕島委員にと提案させていただきましたが、ご承認いただけますでしょうか。

(委員)

異議なし。

(東企画政策課長)

異議なしとのことですが、箕島委員、ご承諾いただけますでしょうか。

(箕島委員)

私であればお引き受けいたします。

(東企画政策課長)

ありがとうございます。それでは、箕島委員に座長をお願いしたいと思います。箕島委員、座長席にご移動をお願いいたします。続きまして、副座長を決めたいと思います。同要綱第5条第2項の規定により、副座長は座長が指名することとなっておりますので、箕島座長からご指名をいただきしたいと思います。

(箕島座長)

箕島でございます。こんにちは。先程皆さんからご承諾をいただき、本会の座長を務めることになりました阿南工業高等専門学校でございまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。私から指名ということですので、大正大学地域構想研究所阿南支局長の鈴江委員にお願いしたいと思います。

(東企画政策課長)

ただいま箕島座長から副座長を鈴江委員にとのことですが、鈴江委員ご承諾いただけますでしょうか。

(鈴江委員)

はい。私によければご指名いただいたので、務めさせていただきます。

(東企画政策課長)

ありがとうございます。副座長は鈴江委員にお願いすることといたします。これより議事進行は箕島座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(箕島座長)

それでは会議を進めていきたいと思っております。まず議題2「令和3年度実績評価について」を議題とします。まず事務局より説明をお願いいたします。

(脇坂課長補佐)

第2期阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和3年度実績・評価についてご説明させていただきます。事前に実績の資料を送付させていただき、ご確認いただいているところではございますが、事前にいただきましたご質問やご意見については、後ほど順番にご発言をいただきたいと思っております。

それでは、配布させていただいております資料に基づき説明させていただきます。資料1をご覧ください。1ページからは、令和3年度実績・評価シートになっておりますが、基本目標ごとの各KPI項目に、年度ごとの目標値を定めており、それに対する実績と進捗状況を記載しております。進捗状況につきましては、年度目標数に対し、達成している場合は「達成・継続」、80%以上で「概ね順調」、60%以上80%未満で「やや遅れ」、60%未満で「遅れ」、実施していない場合は「未実施」としてしております。また5年後に行われるアンケートなど令和3年度に実施しないこととしている項目につきましては、「評価対象外」としてあります。説明に当たりましては、進捗状況が「達成・継続」及び「おおむね順調」のものについては省略させていただき、その他の項目を中心に説明させていただきます。

まず1ページ、基本目標1の主要な政策1「新たな付加価値による農林漁業で稼ぐ」では、上から4つ目「有害鳥獣のジビエとしての有効活用頭数」は「評価対象外」となっておりますが、本年3月にジビエ処理加工施設が完成いたしました。排水処理の関係で最大の処理頭数が100頭となっており、目標値の見直しが必要となっております。令和5年度及び令和6年度の目標値をそれぞれ100頭と変更したいと考えておりますので、ご意見がございましたら後ほどお願いいたします。次に、主要な施策3「地域資源を生かして観光で稼ぐ」では、商工政策課、野球のまち推進課における4つの事業が「遅れ」になっております。これは新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント等の中止

が影響しております。次に2ページ、主要な施策4「人材育成と雇用の確保」では、「新規認定農業者数」の令和2年度実績数値に誤りがあったため訂正しております。次の商工政策課の取組である「新規船員就労者数」がゼロとなっております。尾道海技大学校阿南校の卒業生は2021年7月に12人、2022年6月に7人となっておりますが、この指標の根拠が、阿南市船員祝金給付事業の実績となっており、この給付金の交付要件が、「市内在住であり市内海運事業者における6か月の雇用と、2年以内の本人からの申請」であるため、実績がゼロとなっております。今後この制度の周知方法についての改善が必要と考えております。次の「農業体験受入人数」については、例年、武蔵野大学から学生を受け入れておりましたが、コロナの影響により実施できていないことが影響しております。

次に、3ページの基本目標2「阿南市とつながり、住んで、好きになる」の主要な施策1「移住・定住の促進」では、最上段のふるさと未来課の「県外からの移住者数」につきましては、令和2年度の実績に誤りがありましたので訂正しています。その下の「伊島若者定住促進住宅の入居戸数」では、住宅自体の戸数は5戸で目標値は4戸となっておりますが、実績は目標値の半分となっており、「遅れ」の評価になっておりますが、小中学校の休校の影響もあり、厳しい状況であると考えます。「ふるさと会会員数」についても、令和2年度の実績に誤りがありましたので訂正しています。次に主要な施策2「シティプロモーションによる郷土愛の醸成とまちの魅力発信」では、「市外から訪れたくなる魅力あるまちだと思ふ市民の割合」と「地域資源を活用したまちづくりに活気を感じる市民の割合」については、5年後の数値を記載することとしております。基準値は、総合計画策定時に実施した市民意識調査の結果となっております。総合計画は4年目に検証・見直しを図ることとしておりますので、該当の令和6年度において市民意識調査を行い、その割合を把握する予定となっております。主要な施策3「地域を支える人材育成、多様な主体との連携」では、「高校や高専、大学、経済団体等との連携・共同事業」は、目標6事業に対し、実績は2事業で「遅れ」となっておりますが、例年取り組んでいました事業がコロナの影響で中止になったことにより実績が上がっていないものであります。中止になったのは、大阪大学、武蔵野大学、日本体育大学との連携事業であり、実施している事業は、阿南高専と大正大学との連携事業となります。

最後に5ページの基本目標4「人口減少社会に適応した、持続可能なまちをつくる」では、主要な施策1「デジタル技術等を活用した行政の推進」の2項目め、市民生活課の「マイナンバーカードの人口に対する交付枚数率」が「やや遅れ」となっておりますが、市職員や国から委託を受けた行政書士による各住民センター、公民館での出張申請サポートや、国から委託を受けた事業所によるひまわり会館での出張申請サポートを開催するなど、身近な場所でカードの申請ができる機会を多く設けることにより、交付率の向上を目指しております。次に、企画政策課の事業である5項目め「利便性が高く、快適に生活できるまちとを感じる市民の割合」と、主要な施策4「SDGsの推進」の「日常生活や職場等でSDGsを実践している市民の割合」については、令和6年度の市民意識調査で把握する予定となっております。また、主要な施策2「安全・安心な暮らしを守る」の2つ目「特定保健指導実施率」についてですが、現時点では特定健康診査において訪問し指導する必要がある方のうち、除外すべき方についても含まれている数値となっております。今後、国保連合会から提供されるデータと照合して、対象者が確定するため、把握できるのは報告がある10月頃となりますが、対象者が限定されることにより現時点の達成率が下がることはないものと見込んでおります。主要な施策3「安全・安心なまちづくり」の2つ目「管理不全空き家率」は、住宅・土地統計調査をもと

に算出しているため、次回の調査実施は令和5年度となります。

6ページをお願いします。最後は総括表となっております。達成状況の総括ですが、全体の事業の達成率は48.9%、「おおむね順調」を含めば80.0%となっております。遅れている事業7事業のうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものが5事業でございます。各事業におきましては、年度目標を達成しているものについては、引き続き継続できるよう進めていくとともに、進捗状況が遅れているものについては、現状を分析し計画どおり進めていけるよう関係課と連携していきたいと考えております。以上、令和3年度の実績及び評価となっております。ご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

(箕島座長)

どうもありがとうございました。まず、この実績等についてご質問をお受けしたいと思っております。複数の質問がある方は全ての質問をまとめてお話いただいて、その後、担当部長から回答をお願いしたいと思います。質問は事前に受け付けておりますので、まず青木委員からお願いいたします。

(青木委員)

青木でございます。よろしくお願いいたします。質問意見は2点に絞らせていただきます。まず1点目でございます。1点目は、基本目標2「阿南市とつながり、住んで、好きになる」の主要な施策3「地域を支える人材育成、多様な主体との連携」の「高校や高専、大学、経済団体等との連携・共同事業」についての質問でございます。若い世代の方々がもっと柔軟に企画や研究が連携・共同でできる仕組みづくりがもっと必要だと思っております。事務局の説明で、コロナで中止になって大学が来られなかったといったデータもありますが、それであれば逆に阿南高専さんや、地元の学校等との共同・連携をもう少し深めるべきではないでしょうか。またプロジェクトに関しても、市民レベルからすると、大きなプロジェクトだけが連携だというイメージがついてしまうのですが、そうじゃないと思います。特に大正大学さんがよく小さな、まちになじんだ活動をされています。それも僕はプロジェクトだと思っています。そういった大小関わらず、プロジェクト数も拾って数字にするというのも一つの手法だと考えております。そうすることによって、地域住民の皆さんが「こんな事業をやっているんだ」「共同でやっているんだ」みたいな身近に感じる展開を今後私は期待したい。また、高校生や大学生からこんなことをしたいというチャレンジ精神のある声を拾って、逆にそこへ「じゃあ一緒にやるか」みたいなハードルを少し下げようという形で、地域人材を育てる事業になってほしいと考えてございます。そうすれば、数字だけではないですけども、もっと数字も上がるし、やっていることも市民・住民に伝わると思っております。1つ事例としては、今、阿南高専で多田教授と地域ハイブリッドの防災の活動をさせていただいています。コロナ禍であっても順調に進んでおまして、地域住民の皆さんが、防災会で事前の復興をやろうといった新しい試みも行っております。高専さんや、市や県の共同で行っている事業でございますので、ぜひともそういった身近で考えられるような事業になってほしいと考えております。ぜひとも、ご期待申し上げます。

2点目は、最後の「日常生活や職場等でSDGsを実践している市民の割合」でございます。これは「評価対象外」となっておりますが、SDGsは外せません。市民うんぬんでなく、世界的にしないといけないのです。地球に住んでいる以上は、SDGsの理念を市民と常に共有し、特に阿南市のキーワードである安心して住み続けることがで

きる持続可能なまちづくりという、一丁目一番地に対して、もっと市民一人ひとりのSDGsの実践を浸透させてほしいと思います。やはりSDGsの浸透があつてこそ、それが阿南市民としても誇れるし、阿南市のまちづくり、持続可能なまちへつながってくると信じております。ぜひとも身近なSDGs理解、普及啓発活動について促進を求めたいと考えております。発言は以上でございます。

(箕島座長)

そうしましたら、それぞれの質問について回答をお願いしたいと思います。最初の基本目標2の3の質問です。

(岡田企画部長)

企画部の岡田でございます。よろしくお願ひいたします。それでは青木委員の質問にお答えをさせていただきます。初めに若者世代の連携事業に関するお尋ねでございますが、昨年度は、阿南高専との連携事業として、学校への各種出前講座や生物多様性に関する連携事業等を実施しており、大正大学とはSDGs、地域循環共生圏構想、若者UIJターン等についての連携事業を実施しております。他方、大阪大学、武蔵野大学、日本体育大学との連携事業は、コロナの影響で中止している状況ですが、今後コロナが収束すれば再開を予定しております。また、これら大学等との連携事業だけでなく、本年度からはトライアル・サウンディング事業として民間事業者等に市の遊休資産や公共施設の空きスペース等を試験的に利用していただき、官民連携により事業の実現可能性を把握する取組を実施しております。今後も多種多様な主体との連携強化により、地域人材等を育てる取組を推進したいと考えております。

次に、SDGsの理解、普及・啓発事業についてのお尋ねでございますが、地方創生の取組を推進するためには、持続可能な開発目標であるSDGsの理念を市民と共有し、地域社会に浸透を図ることが重要でございます。昨年度は、官学連携事業を通じまして、「ごっついあなんフェア」と題し、市役所市民交流ロビーや多目的スペースを利用し、SDGsをテーマにした講演やワークショップ、生物画のパネル展示等を開催いたしました。また青木委員にもご協力いただきましたが、市民が集う「あなんまちマルシェ」に「SDGsカフェ」を出店し、高校生ボランティアやYMCA、アウトドア愛好家の皆様の協力の下、広く市民の皆様がお茶を楽しみながらワークショップやアンケートにご参加いただき、阿南市の生き物や自然を通じて、SDGsの根幹ともいえる持続可能な環境の大切さについて共有し、SDGsの理念の輪を広げる取組を行いました。また、大正大学地域創生学部の地域実習・阿南班の皆さんによる「SDGs推進竹プランターの阿南駅前設置」や市内のSDGsの取組を紹介する「普及啓発パンフレット(anan SDGs glasses)」の作成等を実施しており、今後におきましても、こうした取組を通じて、SDGsの理解、普及・啓発を推進したいと考えております。また、本年度は4月に阿南信用金庫様、東京海上日動火災保険株式会社様と、地方創生、SDGsの推進、ダイバーシティの実現及び青少年の健全育成に資することを目的に「地方創生・SDGsの推進に関する包括連携協定」を締結し、2社が提供するSDGs関連サービスを利用することとしております。具体的な取組といたしましては、「EARTH SHIP PARTNER ANAN(アース・シップ・パートナー・アナン)」登録制度に、東京海上日動様が提供しているSDGs診断サービスを利用し、企業のSDGs行動宣言と合わせて、取組内容を阿南市のホームページで公表することにより、登録企業の認知度向上を図り、官民協働の持続可能な社会づくりを実現しようとするパートナー意識の醸成を図ってお

ります。今後におきましても、市民の皆様と一体となって、次世代へつなぐ持続可能なまちづくりに向けてSDGsを推進してまいりたいと考えております。以上お答えとさせていただきます。

(箕島座長)

よろしいですか。

(青木委員)

明確にお答えをいただきありがとうございます。まさに今ご説明のあったとおりで思っております。ぜひとも円滑な推進をよろしく願いいたします。以上でございます。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。次に鈴江委員からご質問をいただいております。よろしく願います。

(鈴江委員)

鈴江です。基本目標1の4「人材育成と雇用の確保」で、「新規船員就労者数」の実績が上がってない理由については、事務局から説明がありました。あまり知られていないですが、阿南市は、四国では今治市に次いで海運業が盛んで、歴史的なこともあります。日本の国内航路あちこち阿南の船が走って外貨を獲得してきております。けれどもその船員のなり手がいないということで、船会社も困って、そういった海運事業者と商工会議所とが連携し「ふなどころ阿南まちづくり協議会」をつくって、それが尾道海技大学校阿南校の設立にもつながったわけです。おそらくもう2期生まで卒業しているんですけど、実務経験が6か月いるので、まだ祝金の申請がされていないかなとは思いますが。そういった意味でも、祝金制度を創設されたというのはすごくいいことだと思います。これから、まち・ひと・しごとの多様な仕事の中で阿南の海運というのは大事なところだと思うので、今後も船員を育成するために、市内の海運事業者、商工会議所と連携していろいろ支援を図っていくべきと感じております。何かご見解がありましたら願います。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。それでは産業部長から回答をお願い致します。

(橘産業部長)

産業部の橘です。どうぞよろしく願います。先ほど、鈴江副座長からもございましたが、現在、阿南市では阿南市定住促進船員就職祝金という制度を導入しております。ただ、現在、海技学校卒業者が昨年度12人、今年度7人でございます。本制度に該当するかどうか調査はできておりませんが、申請者件数は今のところゼロでございます。この事業の周知につきましては、阿南商工会議所が事務局をしております「ふなどころ阿南まちづくり協議会」が作成したパンフレットの中に祝金制度があることや、海技学校の仕組み等が記載されておりますので、このパンフレットを活用した上で、各高校等に配布するなど、なお一層ふなどころ阿南まちづくり協議会と連携して周知に努めていきたいと考えております。実績が上がらない理由として、一つ考えられることと

いたしましては、市内の受講生の割合が少ないということも考えられます。そのことを踏まえまして、同協議会、関係機関等と連携をして先程も言いましたように、市内の高校や県内の高校にパンフレットを配布するなどして周知を進めまして、本市の産業であります海運事業の振興に努めたいと考えております。以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

(箕島座長)

今の回答でいかがでしょうか。

(鈴江委員)

大変良い取組で頑張っておられるようなので期待をいたしております。ありがとうございました。

(箕島座長)

他の委員の方もよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

次に藤井委員から事前に質問を受け付けておりますが、今日のご欠席ですので、私の方から代読いたします。まず基本目標1-1「「EARTH SHIP PARTNER ANAN」の推進によるSDGs目標達成に取り組む市内事業者数」について、SDGs目標達成に取り組む市内利用者数に登録してもらうために、どのように発信していく予定ですか。今後、関係人口の拡大に向け、新たに取り組んでいくことはございますか。

2番目の質問ですが、基本目標2「阿南市とつながり、住んで、好きになる」の南阿波定住自立圏共生ビジョン計画期間は、平成29年度から令和3年度までの5年間となっています。今年度以降の計画はどのようになっていますでしょうか。

3番目の質問は、基本目標3-2の保育所等利用待機児童数に関するものです。2人目を出産した場合、1人目が保育所等を退所することによって、定員に空きが生まれ、他の待機している乳幼児が入所できるという流れがあります。また、空きに対して保護者自身が自宅から遠いなどの理由で辞退した場合は、待機児童数のカウントとなりません。乳児を抱えながら、日中、上の子(幼児)の世話の負担は大きく、孤独や不安を抱きがちです。上の子を退所させずに済む方法として、第2子の出産時期を考える場合もあります。男女雇用機会均等法制定以降、女性が仕事と子育てを両立するための支援が始まりました。今は家族構成やライフスタイルがさらに多様化しており、仕事の有無に関わらず利用しやすい子育て支援が望まれます。お母さんが社会とのつながりを持って孤立せずに生きていけることが、子どもの健やかな育ちにつながります。数字だけでは測れない子育ての本音に耳を傾ける必要があると思っています。

この3点のご質問です。最初の2点については企画部長、それから保健福祉部長から回答をお願いしたいと思います。

(岡田企画部長)

企画部の岡田でございます。よろしくお願いたします。初めにSDGs目標の達成に取り組む市内事業者の発信についてのお尋ねですが、「EARTH SHIP PARTNER ANAN」(通称エスパ)登録制度を活用いたしまして、登録事業者のSDGsの取組についての行動宣言書を作成し、その宣言内容や各事業所の取組内容を市ホームページ等で幅広く広報する取組を予定しております。そうすることによりまして、エスパに未加入の様々な業種の事業者アプローチし、登録している事業者の活動や、SDGsの目標達成の手法

を知ることで、エスパに興味を持っていただけるきっかけとなり、登録する事業者も増加するのではないかと考えております。また、こうした市内のエスパ事業者のSDGs達成に向けての取組等の情報を発信、共有することで、本市や市内各事業者のブランド価値が向上し、関係人口の創出・拡大・深化につながるのではないかと考えております。

次に、南阿波定住自立圏についてのお尋ねでございますが、定住自立圏の形成は、人口定住のために必要な生活機能の確保に向けて中心市宣言を行った中心市である阿南市と近隣町的那賀町、美波町、牟岐町、海陽町の1市4町が、「生活機能の強化」、「結びつきやネットワークの強化」、「圏域マネジメント能力の強化」の3つの観点から連携し、関係市町の議会の議決を経て定める協定に基づき、具体的な取組を定めております。今年度以降の計画につきましては、計画期間が平成29年度から5年間の最終年度となる本年1月に定住自立圏形成協定に掲げられた政策分野の関係者及び識見を有する者で構成する南阿波定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催し、次期共生ビジョン素案についての協議を行いました。その後パブリックコメント等の所要の手続きを経て、本年3月に令和4年度から8年度までの5年間の計画期間とする第2次南阿波定住自立圏共生ビジョンを策定し、引き続き「集約とネットワーク」の考え方にに基づき、生活機能の維持・拡充に向けて、地域医療啓発・連携等支援事業など、30の具体的事業を推進し、圏域の人口定住のための活性化を図りたいと考えております。以上です。

(箕島座長)

引き続きお願いします。

(吉岡保健福祉部長)

保健福祉部の吉岡です。待機児童についてのご質問でございますが、待機児童数は、児童の保護者が市から保育の必要性が認定され、保育所等の申込みをしているにもかかわらず、入所に至らなかった場合に待機児童としてカウントされます。ただし、特定の保育所を希望するなど保護者の私的な理由により待機している場合には、待機児童には含めないとされているところでございます。本市におきましては、育児休業中の保育所の継続利用については、子どもの発達上、環境の変化に留意する必要がある場合や、社会情勢の流れ、核家族化など家庭の事情に配慮し、3歳児以上の児童が利用できることとなっておりますが、2歳児以下の児童につきましては、現在のところ退所していただいている状況でございます。今後におきましては、育休退所の取扱いについては、保育現場の状況等を踏まえ、また働き方の多様化に対応した子育て支援の強化を図る観点から、段階的な緩和に向けて取り組んでまいりたいと考えております。以上、ご回答いたします。

(箕島座長)

どうもありがとうございました。藤井委員はご欠席ですので、他の委員の方々、今のご回答に何かご質問等はございますでしょうか。

1点だけ意見を述べさせていただきます。先程、ホームページで周知をするという話がありましたが、ホームページで周知をしても、市民の皆さんがどれだけ見られているかというのはまた別問題です。私どもの高専でも学生に周知をする場合に、学生が必ず見るホームページがありますが、それよりもっと重要な場合は、各担任から周知をするようなことをしております。従いまして、いろいろな事業がございまして、周知をする場合にホームページに載せたからいいというわけではなくて、例えばSDGsであっ

たりそれぞれに業界団体というルートがあるので、そのトップに周知をしてその下の方まで周知してもらうなど、様々な手を使われる方が良いと思います。高専の場合は、「今コロナが非常に流行っているので注意をください。」というときでも、必ず見るホームページに載せたらよいというわけではなく、必ず連絡が行くような手段をいろいろと考えました。事業をするときやいろいろな周知をするときに、様々なルートを使ってされる方が良いと思います。

事前にいただいた質問は以上でございますが、他に出席されている委員の方で何かご質問はございますでしょうか。

(坂本委員)

坂本です。お願いします。先程、青木委員からもありましたけども、SDGsの推進のところで「日常的にSDGsを実践している市民」と書かれていますが、何を持ってSDGsが実践できているかというのがちょっと引っかけられます。市民の方からもSDGsってとてもわかりにくいという声も聞きます。そういう中で何を持ってSDGsを実践しているかすると、私は、世界共通の17の目標を知ることがとても大事なことだと思いますし、今の暮らしは世界とつながっているものですので、そこに貢献できることがあるとは思いますが、やはり市民が実践できるのは地域のこと、いわゆるローカルSDGsのことだと思います。なので、SDGsというのは、ありがたい未来を想像することも大事だし、今の地域の課題を知ることがとても大事だと思います。どんな地域の課題があって、自分がその地域の課題にどう貢献できているのかということを語れるようになることがSDGsの実践ではないかと思いますので、地域の課題、行政の課題を地域の方々、市民の方々が知ることがとても大事だと思います。今回このように評価されていますけれども、できていることもとても大事だけれども、できていないことにしっかり注力して、それを市民にも知っていただく、そこに市民がどう関わっていただけるのかを考えていくことがとても大事だと思いますので、SDGsの実践に関しては、啓発だけでなく、こういった地域の課題をみんなが考えていくということを丁寧に作業していくことがとても大事だと思います。以上です。

(箕島座長)

どうもありがとうございました。何か市から回答はございますか。企画部長よろしいですか。

(岡田企画部長)

企画部の岡田でございます。よろしく申し上げます。確かに実践してもらうということが大事だと思います。それから課題を見つめ直すという点も、これもやっぱり大事だと思います。阿南市も、新たな取組みといたしまして、起業家に向けて、SDGsに関連した新たな商品開発でありますとか、事業再構築というような補助事業等も今年度から実施しております。その中でSDGsを考えながら申請書を書いていただくこととしています。立ち止まってSDGsのことを考えていただくというような取組を今後も増やしていきたいと思っております。以上、お答えとさせていただきます。

(箕島座長)

よろしいでしょうか。

(坂本委員)

ありがとうございます。

(箕島座長)

他にご質問はございますか。よろしいですか。

(池添委員)

ただ今のご発言に追加でお聞きしたいのですが、今後アンケート調査等により把握する予定ということが事業の評価とされていますが、それについて坂本委員のご発言と全く同じところに私もひっかかっています。イエスかノーかで聞かれると「SDGsしているよ」ということになると思います。SDGsというのは、この計画の中ではまちづくりの中に含まれておりますけれども、本当に広いので、思いやりを持った行動をすればSDGsの実践ということも言えるかもしれません。それをどのように定義して、どのようにアンケートによって、定量的に評価するということがアンケートで果たしていいのか、ということも感じましたので、意見を述べさせていただきます。

(箕島座長)

市の方は、いかがですか。

(岡田企画部長)

また考えさせてもらいます。

(箕島座長)

ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。どうもありがとうございました。

それでは委員の皆様から今後の総合戦略の取組等についてご意見をいただきたいと思っておりますので、お1人3分以内でお願いしたいと思います。左手から、青木委員から、総合戦略の取組等についてのご意見をお願いします。

(青木委員)

今後もしっかりと市民の皆さんに総合戦略を知っていただくこと、やはり見える形、そして知っていただく形が私は望ましいと考えております。この計画・実行について、今日ご協議したことを踏まえて、私もしっかりとご協力させていただきますし、行政側もしっかりと進めてほしいと思っております。以上でございます。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。次に池添委員をお願いします。

(池添委員)

見える化ということばが青木委員から出ましたけれども、SDGsというメッセージでコンテンツがわかりやすく一般化されたということも社会全体の認識としてあると思います。そのコンテンツをうまく活用しながら、その中の阿南市はこの部分はこういうふう具体的にしているというように見える化をして評価をするということにつながればいいなと感じました。以上です。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。次、岩佐委員お願いします。

(岩佐委員)

失礼いたします。私もお聞きしたかったのは、船員の就労者数の部分でありまして、先程、回答いただきましたので、納得できました。卒業された方のフォローも今後強化していただいて、継続した取組をしていただきたいと思います。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。兼松委員お願いします。

(兼松委員)

令和3年度の実績・評価ということではありませんが、私は商工業者の代表として出席させていただいております。ご存知のとおり阿南市は他の市町村が羨むような職場も大変多いですし、企業さんも毎日のようにできております。ただし、それに胡坐をかくというわけにはいきません。今、阿南市は電源・エネルギー供給都市としての位置が確立できておりますけれども、やはりSDGsに合ったカーボンニュートラル、カーボンニュートラルに沿った風力発電や水素発電といったエネルギー供給都市としてのこれからの未来を新しく切り開いていかないといけないと考えております。そのあたりは、他の市町村よりいち早く手を挙げていただいて、風力発電や水素発電等の企業の誘致を図っていただくことをお願いしたいと思います。以上でございます。

(箕島座長)

どうもありがとうございます。次、坂本委員お願いします。

(坂本委員)

こういうふうに施策を横並びで見させていただくと、本当にたくさんのお取り組みがあるのだなと感じます。うまくいっていることや地域の魅力、行政の魅力、強みを共有することもとても大事で、それを他の施策と結びつける、よく言われる横断的な取り組みができればいいなと感じました。以上です。

(箕島座長)

次は佐竹委員、お願いします。

(佐竹委員)

さきほどSDGsという言葉が出てきましたが、ここにバッチを付けていますが、これがマークです。17の目標と169のターゲットがあって、全部が全部をやるのではなくて、自社の規模に合わせてできることをやる。会社として目標のような形を決めてやる。それができているところが評価される職場になっています。そういう職場を就労する人たちが求めて来る。今の時代はそういう時代になったということです。ですから、会社関係で阿南市がいろいろといただいていることもあるのですが、SDGsを推進するということは、「うちの会社はこれとこれをやっている」、「1つ2つを一緒にしよう」といったみんながやっていくことを、阿南市がしっかり評価していくようなわかりやすい形にできたらいいと思います。いくらでも項目はありますので、できること

からしていったらいいということになると思います。

(箕島座長)

ありがとうございました。次、鈴江委員お願いします。

(鈴江委員)

総合計画の方ともだぶりますが、期待したい事業をいくつか申し上げたいと思います。農山漁村未来創造事業、就農モデル事業です。このあたりは新規就農や副業というのが都会では興味を持たれているので、そういったモデルにつながるような事例が現れてきたらいいなと思います。

それと自治体DX推進事業ですが、サービスとセキュリティという相反するものは、もし何かあったら大変ですが、例えば目的に応じてサーバーを分けるとか多元化することで、市民にもっと身近なサービスが提供できるのではないかと感じたりしております。

それと最後に定住自立圏の事業ですが、徳島県南部にはいろいろ課題がありますが、阿南市がリーダーシップをとってやっていかなければいけないと思います。人材育成や、職員をはじめ地域リーダーといった部門がこれから大事だと思うので、例えば地域再生マネージャーなどの外部人材の導入というのでも検討されてはいいかと思いました。以上です。

(箕島座長)

ありがとうございます。次、中野委員お願いします。

(中野委員)

今回初めてではっきり分からないんですけど、今回資料を見させてもらった、水産関係のことが全然載っていないので、言うことがほとんどないんですね。ブランド戦略でも、農業や林業に関しては載っているんですけど、漁業に関してはブランド戦略も全然載ってない。販路に関しても何か取組をしてもらいたい。今、1次産業が一番厳しいので、1次から6次までいけるようなルートといったものを何か考えていただきたいと思います。

(箕島座長)

ありがとうございました。次、秦野委員お願いします。

(秦野委員)

農業団体から参加させていただいています。近年、耕作放棄地がかなり増えてきております。環境面からもそれは良くないことと思っているので、そういったところの対策を具体的に検討していかないといけないと思っています。それと高収益の農業を実践するというところで、施設野菜の栽培面積の拡大を目標に掲げています。これも近年、ハウス施設の建設イニシャルコストがかなり高騰してきています。高齢等の理由によって生産をやめていく農家もいる中で、面積を拡大していこうと思えば、かなりの面積を増やしていかなければ全体的な面積は増えないということで、そういった施設部分の支援を今後検討していただければいいなと思いました。以上です。

(箕島座長)

次、山本委員お願いします。

(山本委員)

先ほどの阿南市総合計画と重なるんですけども、子どもを大事にするというのは本当に一番だと思います。その次はといえば、高齢者です。私は、公民館に勤めているんですけども、高齢者があと3年でとんでもない数になります。この方々をどのように健康に維持していくかということが一番だと思っております。保険とかが全然違ってきますので、できるだけ元気な状態でいてほしいと思っておりました。この件に関して、行政の方も高齢者に対してどのようにしたらいいかということも考えて欲しいと思っております。かもだ岬温泉保養施設についても、高齢者のために維持管理してほしいと思っております。よろしくお願いします。

(箕島座長)

どうもありがとうございました。委員の皆様から貴重なご意見いただき誠にありがとうございます。市におかれましては、委員の方々の意見を参考に今後も阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な取組を進めていただきたいと思います。

これで議題2の審議を終えたいと思っております。本会議の議事は全て終了しました。事務局から連絡事項等はございますか。

(東企画政策課長)

総合戦略懇談会の委員の皆様は任期は2年となっておりますので、来年度につきましても、引き続きよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

(箕島座長)

委員の皆様方にはスムーズな議事進行にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。本日の会議はこれで終了いたします。

(東企画政策課長)

本日は長時間にわたりご議論ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第1回阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

(11:58 終了)